

シネマ

Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là

Ciné-là



シネラニュース

🎞️ 収蔵映画特集

- ・野村芳太郎監督特集
- ・レスター・ジェームス・ピーリス監督とスリランカ映画特集



「張込み」

収蔵映画特集

野村芳太郎監督特集

「張込み」「ゼロの焦点」「砂の器」「鬼畜」「事件」

レスター・ジェームス・ピーリス監督とスリランカ映画特集

「運命線」「変革の時代」「日が沈むところ」「湖畔の邸宅」「長女」「マザー・アローン」「蓮の道」「その橋の下で」「心の闇」「城壁」「私への旅」「サロージャー」「告白」「スリ」「白い影」



「運命線」

野村芳太郎監督特集

サスペンスの巨匠として
日本映画界をリードした
野村芳太郎監督の代表作を上映。



「ゼロの焦点」

1952年、松竹より監督デビューした野村芳太郎が、演出家として注目を集めるのが1958年、松本清張原作の「張込み」からです。もともと時代劇から現代劇、喜劇からメロドラマまで器用にこなす監督でしたが、この作品以降「ゼロの焦点」、「砂の器」など松本清張作品を中心にサスペンス映画、推理映画を手がけ、この分野における第一人者となります。野村芳太郎のサスペンスの特徴は、緊張感を巧みに盛り上げながらも一方で作品の中に社会性、メッセージ性を巧みに折り込み、カメラマン・川又昂の抒情性豊かな映像美と共に骨太な人間ドラマとなっている点です。今回の特集ではそうした野村監督の代表作五作を上映いたします。

会期：7月23日(水)～7月27日(日)

観覧料：500円(大人)400円(大学生・高校生)300円(中学生・小学生)

定員制・各回入替制。
チケットはすべて当日券。前売り券はありません。
福岡市在住の障害者の方は無料。福岡市在住の65以上の方は半額。(手帳の提示が必要です。)

張込み

7月23日(水)14:00 7月26日(土)14:00



逃亡中のピストル強盗犯の一人を追って二人の刑事が、犯人の恋人で今は銀行員と結婚している佐賀の女性を張り込む…。細かいディテールの積み重ねとドキュメンタリータッチの演出の中に終始緊張感をみなぎらした社会派サスペンス映画の傑作。この作品の成功で野村芳太郎は監督として注目を集めるようになる。

1957年/35ミリ/モノクロ/116分/松竹/原作:松本清張/監督:野村芳太郎/脚本:橋本忍
主演:高峰秀子、田村高廣

レスター・ジェームス・ピーリス監督と スリランカ映画特集

会期：7月3日(木)～7月21日(月・祝) 休館日・休映日除く

観覧料：500円(大人)400円(大学生・高校生)300円(中学生・小学生)

定員制・各回入替制。
チケットはすべて当日券。前売り券はありません。
福岡市在住の障害者の方は無料。福岡市在住の65以上の方は半額。(手帳の提示が必要です。)

昨年日本と国交50周年を迎えたスリランカ映画の特集。



「サロージャー」

湖畔の邸宅

Mansion by the Lake

7月6日(日)14:00 7月10日(木)19:00



チェーホフの戯曲「桜の園」から着想を得て、大家族制が崩壊した80年代後半のスリランカ社会を描いた作品。かつて資産家であったラージャス・リヤ夫人の邸宅は、債務不履行により競売にかけられようとしていた。家名を大事にし、借金を奔走する夫人だが、もはや誰にも助けてもらえないのだった。

2002年/35ミリ/カラー/124分/スリランカ/日本語・英語字幕付き/監督:レスター・ジェームス・ピーリス/出演:マリーニー・フォンセーカ、ラウインドラ・ランデニヤ

運命線

The Line of Destiny

7月3日(木)14:00 7月6日(日)11:00



スリランカ映画の巨匠レスター・ジェームス・ピーリス監督の最初の劇映画。それまでの南インドの強い影響から脱したスリランカ映画として記念碑的な作品である。病気を治す力があると予言された少年と、そのことが村に巻き起こす騒動を、素人を俳優に起用して製作した作品。

1956年/35ミリ/モノクロ/89分/スリランカ/日本語・英語字幕付き/監督:レスター・ジェームス・ピーリス/出演:ソーパーラ・ダルマプリヤ、アイランガニー・ミーデニヤ

変革の時代

The Age of Kali

7月4日(金)14:00 7月5日(土)11:00



スリランカ文学を代表するマーティン・ウィクラマシンハの小説を映画化したもの。大都市コロンプに住む夫婦を中心に、上流階級の人々が時代の変革の波の中で自分を見失い、バラバラになっていく姿が描かれる。80年代のスリランカ映画の最も優れた作品の一つと評価されている作品。

1982年/35ミリ/カラー/85分/スリランカ/日本語・英語字幕付き/監督:レスター・ジェームス・ピーリス/出演:ヘンリー・ジャヤセーナ、ブンニヤ・ヒンデニヤ

日が沈むところ

Where the Sun Sets

7月9日(水)14:00 7月13日(日)14:00



裕福な商人であるサティガラには二人の息子と一人の娘がいる。子ども達はそれぞれ結婚するが、次第に父親の財産を巡って争いが始まる。年老いたサティガラと妻にはもはやどうすることも出来ない。世代の価値観の違いと、ある家族の崩壊が静かな映像で叙事詩的に描かれる。

1994年/35ミリ/カラー/170分/スリランカ/日本語・英語字幕付き/監督:レスター・ジェームス・ピーリス/出演:ジョー・アペーウィクラマ、アイランガニー・セーラシンハ

長女

The Eldest Daughter

7月17日(木)14:00 7月20日(日)14:00



レスター・ジェームス・ピーリス監督の夫人であり、スリランカ初の女性監督であるスミトラ・ピーリス監督作品。一貫してフェミニズムをテーマとするスミトラ・ピーリス監督だが、本作では古い価値観に閉じこめられ、家族のために多大な犠牲を払う中流階級の長女を描いている。

1993年/35ミリ/カラー/150分/スリランカ/日本語・英語字幕付き/監督:スミトラ・ピーリス/出演:ガミーニー・フォンセカ、ギター・クマラシンハ

マザー・アローン

Mother Alone

7月4日(金)19:00 7月5日(土)17:00



裕福な家庭の娘トゥシャーリは、親の勤める結婚相手に納得できず、別の男性の子供を身籠もってしまう。その後父の商店は倒産、悲嘆にくれるトゥシャーリだが、結婚せずに子供を育てる決心をする。イギリス植民地時代のスリランカを舞台にした、一人の女性の成長の物語である。

1997年/35ミリ/カラー/127分/スリランカ/日本語・英語字幕付き/監督:スミトラ・ピーリス/出演:サンギータ・ウィーララトゥナ、トーニ・ラナシンハ

蓮の道

The Way of the Lotus

7月5日(土)14:00 7月10日(木)14:00



幼い頃から古い生活習慣に疑問を感じるアラウindaは、何事にも翻弄されない強い信念を持ち、生涯を独身で過ごす。同時に1920年代から50年代のスリランカが描かれる。スリランカで初めて内面世界を描いた小説として支持されたマーティン・ウィクラマシンハの小説の映画化。

1987年/35ミリ/カラー/140分/スリランカ/日本語・英語字幕付き/監督:ティッサ・アペーセーカラ/出演:サナトゥ・グナティラカ、スリヤーニ・アマラセーナ

ゼロの焦点

7月24日(木)19:00 7月26日(土)11:00



松本清張の社会派推理小説の代表作を「張込み」と同じく脚本・橋本忍、監督・野村芳太郎で映画化。金沢で、元巡査で現在は広告マンである男の死体が発見された。妻はその死に不審を抱き、単独で捜査に乗り出す。過去と現在を縦横に交錯させた構成の中から、人間の悲しみが浮かび上がっていく。

1961年/35ミリ/モノクロ/95分/松竹/原作:松本清張/監督:野村芳太郎/脚本:橋本忍、山田洋次/主演:久我美子、高千穂ひづる

鬼畜

7月25日(金)14:00 7月27日(日)11:00



小さな印刷屋を営む主人公・竹下宗吉は愛人・菊代に7年間で3人の子を作らせてしまう。しかし家業が傾き、菊代は宗吉に3人の子を押しつけ争いを消し、妻・お梅は夫と子ども達にあたり散らす。やがて未っ子が不審な死を遂げる…。娘を捨てて子し、息子を殺そうとする小心なダメ男を緒形拳が好演している。

1977年/35ミリ/カラー/110分/松竹/原作:松本清張/監督:野村芳太郎/脚本:井手雅人/主演:緒形拳、岩下志麻

砂の器

7月24日(木)14:00 7月27日(日)14:00



日本映画史を代表する名作の一つ。迷宮入りかと思われた殺人事件を捜査する刑事の執念と、犯人の動機に隠された悲しい宿命。この映画のために書き下ろした交響詩「宿命」の音楽にのせて日本の四季の風景とハンセン病患者への差別に対するメッセージが織り交ぜられた後半の映像は見事としか言いようがない。

1974年/35ミリ/カラー/143分/松竹=橋本プロ/原作:松本清張/監督:野村芳太郎/脚本:橋本忍、山田洋次/主演:丹波哲郎、加藤剛

事件

7月25日(金)19:00 7月26日(土)17:00



神奈川県厚木市に近い森林でスナックを経営するハツ子の刺殺死体が発見され、若い工員・宏が逮捕される。宏は容疑を認め、裁判と見せかけ、妻・お梅は夫と子ども達にあたり散らす。やがて未っ子が不審な死を遂げる…。娘を捨てて子し、息子を殺そうとする小心なダメ男を緒形拳が好演している。

1978年/35ミリ/カラー/138分/松竹/原作:大岡昇平/監督:野村芳太郎/脚本:新藤兼人/主演:永島敏行、大竹しのぶ

スリランカの映画

日本とスリランカは昨年国交50周年を迎えました。しかし我々はスリランカのことを多く知っているとはいえません。インド洋に浮かぶ宝石とも例えられる国スリランカは、仏教国でありシンハラ語という独自の言葉を使用していますが、同時に古くからインド文化の影響を受けてきました。かつて映画もほとんどが南インドで製作されていました。第二次大戦後、シンハラ語映画のルネッサンスとして登場したのが、レスター・ジェームス・ピール監督です。インド映画とは違うスリランカ独自の映画として、レスター・ジェームス・ピール監督は国際的にも注目を浴び、その存在はインドのサタジット・レイ監督とも比肩されます。またレスター・ジェームス・ピール監督の夫人であるスミラ・ピール監督は、スリランカ初の女性監督として、夫婦共にスリランカ映画の発展に尽力してきました。そして80年代から90年代にかけて、ティッサ・アペーサー監督やブラサンナ・ヴィターナゲ監督等の若い映画人がスリランカ映画を盛り上げていきます。今回の上映ではインドとは違うシンハラ文化について、また80年代後半から現在にいたるスリランカ映画の発展を目の当たりにできることでしょう。

その橋の下で

Under the Bridge

7月11日(金)14:00 7月12日(土)14:00



主人公の女性ドティーは、服役中の夫を待ちながら息子を育てていたが、貧しさに耐えきれず、ギャングのボスの情婦となってしまう。最下層に生きる人々をリアルに愛情を込めて描き出した本作は、各国映画祭で高く評価され、スリランカ映画のニューウェーブとなった。

1990年/35ミリ/カラー/141分/スリランカ/日本語・英語字幕付き/監督:H.D. プレマラトゥナ/出演:サナットウ・グナティラカ、ギター・クマラシンハ

サロージャー

Saroja

7月16日(水)14:00 7月19日(土)14:00



スリランカ政府と戦うタミル人スングラムは、負傷し、娘のサロージャーと共にジャングルに逃げ込む。空腹で動けなくなったスングラムは、娘だけでも助けようとサロージャーにシンハラ人の村に行くように言う。不条理な内戦を告発し、子供達の友情を美しく描いたスリランカ映画の傑作。

1999年/35ミリ/カラー/126分/スリランカ/日本語・英語字幕付き/監督:ソーマラトゥネ・ディサーナヤカ/出演:ジャーナカ・クンプカゲ、ニータ・フェルナンド

心の闇

Dark Night of the Soul

7月11日(金)19:00 7月12日(土)11:00



スウィサールは実業家で、まもなく結婚を控えていた。ある日彼は陪審員として、ピュインという売春婦の殺人容疑の裁判に関わる。ピュインはかつてスウィサールが棄てた女性だった。罪と良心の問題を掘り下げた、若手監督ブラサンナ・ヴィターナゲの野心作である。

1995年/35ミリ/カラー/80分/スリランカ/日本語・英語字幕付き/監督:ブラサンナ・ヴィターナゲ/出演:ラウインドラ・ランデニヤ、スワルナ・マツラワアラッチ

告白

The Compensation

7月17日(木)19:00 7月19日(土)11:00



マニカーとグネーリスの夫婦は、山の中で大きな宝石の原石を発見する。村中が大騒ぎとなり、二人は宝石ブローカーに狙われるようになる。そしてブローカーが雇った殺し屋達に襲われ、村を逃げ出すのだった。スタインベックの小説「真珠」をスリランカのジャングルに置き換えて作られた作品。

2001年/35ミリ/カラー/112分/スリランカ/日本語・英語字幕付き/監督:ペナットウ・ラトゥナーヤカ/出演:ジャクソン・アントニー、ジョー・アペーウイクラマ

城壁

Walls Within

7月12日(土)17:00 7月20日(日)11:00



夫と別居中の中年の女性ヴァイオレットの元に、昔の恋人ヴィクターが25年ぶりに訪れてきた。怪我をしているヴィクターに同情する内、二人は再び恋愛関係となり、ヴァイオレットは妊娠してしまう。人間の内面の神秘とそれにより崩壊する家庭を、サスペンスフルに描いた作品。

1997年/35ミリ/カラー/85分/スリランカ/日本語・英語字幕付き/監督:ブラサンナ・ヴィターナゲ/出演:トニー・ラナシンハ、ニータ・フェルナンド

スリ

Pickpocket

7月18日(金)14:00 7月19日(土)17:00



カマルはスリ稼業でその日暮らしをしていた。身重の妻はそんな彼を責めるが、なかなかまともな職には就けなかった。ある日カマルは男から財布を盗み、その財布の中から妻の写真を発見する。低所得者層の姿をリアルに、寡黙に描き出した作品で、リントン・セーマゲ監督自身が主役を演じている。

2002年/35ミリ/カラー/80分/スリランカ/日本語・英語字幕付き/監督:リントン・セーマゲ/出演:リントン・セーマゲ、ディルハーニ・エーカーヤカ

私への旅

Pilgrimage

7月13日(日)11:00 7月21日(月・祝)14:00



裕福な家庭に育ったメーナカーは、ある日家を訪れた見知らぬ男が漏らした一言で、自分が養女であることを知る。悩んだメーナカーは本当の親を訪ねる決心をする。実話を元にした映画で、監督が児童福祉局で養子縁組のドキュメンタリーを撮影したことを契機として製作された。

1998年/35ミリ/カラー/103分/スリランカ/日本語・英語字幕付き/監督:ワサンタ・オベセーカラ/出演:ヤショータ・ウィマラダラマ、チャンナ・ペレラ

白い影

White Shadows

7月18日(金)19:00 7月21日(月・祝)11:00



19世紀中頃、イギリス支配に抵抗して反乱を起こした仏教徒スドゥバンダーは、8年間の潜伏期間の後、故郷に帰ってきた。しかし彼が故郷で見たのは、正気をなくした母親と、刑務所に入れられた兄だった。一妻多夫制が許容されているスリランカの村を舞台にした物語。

2002年/35ミリ/カラー/119分/スリランカ/日本語・英語字幕付き/監督:スニル・アーリヤラトゥナ/出演:ロシャーン・ピラピティヤ、ワサンティ・チャトゥラーニ

7月
上映スケジュール

1	火	休館日
2	水	休映日
3	木	【14:00】運命線
4	金	【14:00】変革の時代 【19:00】マザー・アローン
5	土	【11:00】変革の時代 【14:00】蓮の道 【17:00】マザー・アローン
6	日	【11:00】運命線 【14:00】湖畔の邸宅
7	月	休館日
8	火	休映日
9	水	【14:00】日が沈むところ
10	木	【14:00】蓮の道 【19:00】湖畔の邸宅
11	金	【14:00】その橋の下で 【19:00】心の闇
12	土	【11:00】心の闇 【14:00】その橋の下で 【17:00】城壁
13	日	【11:00】私への旅 【14:00】日が沈むところ
14	月	休館日
15	火	休映日
16	水	【14:00】サロージャー
17	木	【14:00】長女 【19:00】告白
18	金	【14:00】スリ 【19:00】白い影
19	土	【11:00】告白 【14:00】サロージャー 【17:00】スリ
20	日	【11:00】城壁 【14:00】長女
21	月祝	【11:00】白い影 【14:00】私への旅
22	火	休館日
23	水	【14:00】張込み
24	木	【14:00】砂の器 【19:00】ゼロの焦点
25	金	【14:00】鬼畜 【19:00】事件
26	土	【11:00】ゼロの焦点 【14:00】張込み 【17:00】事件
27	日	【11:00】鬼畜 【14:00】砂の器
28	月	休館日
29	火	休映日
30	水	休映日
31	木	休館日

レスタージェームス・ピリス監督とスリランカ映画特集

野村芳太郎監督特集

アーカイブ News

野村芳太郎の父親のこと

今月特集する野村芳太郎監督は「砂の器」などによって戦後日本映画を代表する監督の一人ですが、その父親はご存じでしょうか。名前を野村芳亭といい、日本映画の草創期から発展期にかけて活躍した映画監督です。のみならず映画との関わりが最も古い人物の一人であり、また日本映画における現代劇の基礎を築いた人物でもあります。今回はその芳亭のことを少し紹介したいと思います。

芳亭は1880年京都に生まれ、父親の跡を継ぎ劇場の背景画や芝居絵などを描いていました。映画と彼の最初の関わりは、1897年リュミエール兄弟の発明した世界最初の映画、シネマトグラフの日本公開のための試写に立ち会ったところからといえます。興行面に明るかった芳亭は大阪での初公開(当然映画館はなく、演劇場を借りて行われた)にも協力し、その際に映写技師として来日したリュミエール兄弟社のジレルが日本の風景などを撮影(シネマトグラフの機械は映写と撮影が兼用できた)したときには、手伝いもつとめたようです。このときのフィルムと思われるものは当館の所蔵するリュミエール・プログラムの中にも収められています。(このときの撮影は失敗に終わったという説もあり)

その後映画が普及する過渡期に「連鎖劇」というスタイルが流行したことがありました。芝居と映画を適宜組み合わせたものですが、1913年頃から芳亭はこの連鎖劇用の映画の演出を手がけていたようです。日活が創設され(1912年)、牧野省三による尾上松之助主演映画が絶大な人気を博していた時代です。

しかし芳亭が映画監督として実質的に活躍し始めるのは、1920年、もともと演劇の会社であった松竹が映画製作を開始してからでした。松竹系の本郷座で新派劇の責任者だった芳亭は松竹キネマに迎えられます。芳亭は大衆向けの内容をハイカラなアメリカ的表現で描くことで、広く一般受けする作品を量産しました。蒲田撮影所に所長格で着任し最初に監督した「二人の夕刊売」(1921年)はわずか3日で仕上げたにも関わらず、松竹キネマ創立以来、最初の興行的成功作となったといえます。その後も大衆受けする作品を中心に作り、初期の松竹キネマを支えた一人となりました。また伊藤大輔の脚本を演出した「清水次郎長」(1922年)は当時、「旧劇」と呼ばれた歌舞伎調の時代劇(松之助映画などがこの代表)に対し、現代劇の俳優を起用して写実的な作品とし、これを「新時代劇」と呼びました。その後も同趣向の作品を手がけて好評を博し、これを機に「旧劇」という呼称はすたれ、「時代劇」という呼称が定着したといえます。しかし、1923年の関東大震災以降から昭和初期にかけ、より刺激的でスピーディな映画が一般に好まれるようになり、芳亭の得意とした新派悲劇調の作品は徐々に人気を失っていきます。代わって注目されるのが島津保次郎などを中心とするユーモアやペースを加味した新しい現代劇の流れでした。現在の映画史観からいえば芳亭は、活動写真から映画へ移る過渡期に活躍した監督であり、まだまだ舞台劇の影響を残し、それから脱却出来なかった監督であったといえます。また松竹の創業期から撮影所の責任者であったこともあり、革新的な映画に対し、旧来の映画の代表として語られることも多いのも事実ですが、1920年代始めに芳亭の作品が映画の大衆化に果たした役割は少なくありません。

芳亭は1934年53歳の若さで急死するまで映画を撮り続けました。
映像調査員 山本 宰

インフォメーション

シネラニュース送付のご案内

定期購読ご希望の方に毎月シネラNEWSをお届けしております。購読を希望される方は、平成15年8月号～平成16年4月号までの郵便切手(90円×9ヶ月)を同封の上、下記宛先へお申度ください。

宛先:〒814-0001福岡市早良区百道浜3-7-1 福岡市総合図書館 映像資料課

ビデオ編集技術研究室のご案内

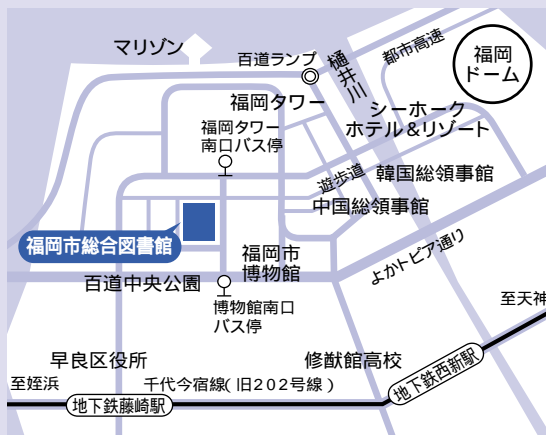
ビデオ研究室では、家庭で撮影されたビデオ(Hi8・DV)や各行事の記録ビデオの編集などに利用できます。(使用料1時間500円、連続使用3時間迄)詳しくは福岡市総合図書館映像資料課まで

公共交通機関ご利用のお願い

駐車場は図書館利用者の共用であり、映像ホール専用の駐車場はありません。駐車スペースに限りがあり、常時混雑しておりますので長時間の駐車はご遠慮いただいております。できるだけ公共交通機関のご利用をお願いいたします。土日祝日のご利用や1日に複数回の映画をご覧いただく場合などは、特にご協力をいただきますようお願いいたします。

交通アクセス

当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。



地下鉄: 西新駅または藤崎駅から徒歩15分

西鉄バス: 天神～都市高速経由～福岡タワー南口 (所要時間:昼間約20分) 博多駅～都市高速経由～福岡タワー南口 (所要時間:昼間約25分) 福岡タワー南口バス停から徒歩3分

いずれも、昼間は10～15分間隔で運行されていますので大変便利です。お近くのバス停からのご利用につきましては、西日本鉄道テレホンセンター(電話:733-3333)に直接お問い合わせください。

Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là
福岡市総合図書館映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号
福岡市総合図書館(代表)092(852)0600 映像資料課092(852)0608 Fax.092(852)0609
福岡市総合図書館ホームページアドレス <http://toshokan.city.fukuoka.jp/>